

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0772100616		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みなみ		
所在地	〒969-1204 福島県本宮市糠沢字南箕内102-3 (電話) 0243-44-1051		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 11.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	4~10月 9,000 円 11~3月 12,000 円	
敷金	有 (円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (19,950 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	7 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2		1 名	
要介護3	9 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82.3 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保白岩診療所、西山歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年に市町村合併により市に編入されたが、福祉空白地帯と言われた旧村に設置されたグループホームである。山並みと田園に囲まれ、点在する近隣農家との距離が離れていることから、地域住民の理解を得ながら交流をいかに図っていくかが課題である。そのために運営推進会議を積極的に活用し、住民総出による寺の盆踊りには利用者と職員が多く参加し理解を深めている。通学路に面していることから、行政と協議をし「こども110番の家」受け入れについても検討している。また、住民意識の啓発も含めてグループホームを地域の拠点施設として活用し、地域密着型サービスの理念の浸透を図るため、空き地を活用した交流の場作りも話し合っている。利用者は清潔な居室で落ち着いて自由に生活を楽しんでいる。介護計画については、利用者の意向や課題を十分把握し作成しており、状態変化に対してもケースカンファレンスを行い、計画の見直しが行なわれケアマネジメントは適切に行なわれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では特に改善事項はなかったが、地域密着型サービスとして地域住民の理解と協力が得られるよう積極的に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。法人責任者も内容を把握し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は、平成18年4月より2ヶ月に1回、定期的開催している。メンバー構成も地域住民の理解を得ることが重要であるとし、地域包括支援センター代表や利用者家族の代表はもとより、行政区区長、組代表、民生委員会長、民生委員、老人会会長等住民代表が多く、ホームの取り組みや行事等を伝え、また、地域の行事等の情報を得ながら双方による実質的な会議が行なわれている。今後は、外部評価の結果についての公開や改善についての意見交換や、また、地域の拠点施設としての活用を図る工夫をし、地域に溶け込んだ開かれたグループホームとして発展されるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1回、定期的担当者が自筆のコメントを添え家族へのお便りを送付し、併せて金銭出納簿と領収書を添付し金銭管理の確認を得ている。また、病院の受診記録や服薬記録により、疾病の状況を知らせるなどしている。家族の意見、苦情等についても話しやすい雰囲気づくりに配慮し、運営推進会議でも家族の代表が要望や意見等を発言しやすいような場の設定をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には加入しているが、行政区の班が町内会であり、世帯数も8世帯と少なく近隣の住宅との距離も離れていることから、連携の難しさが理解できる。そのため、地域総出による盆踊り等の行事を積極的に活用し、ホーム行事のチラシを配布するなどして地域の人たちの理解を得ながら交流を図るよう努めている。通学路に面しているため「こども110番の家」の受け入れについて行政と協議している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念が掲げられていない。職員間で検討を行っており、理解が図られてきているので、地域との関係を重視した具体的な理念に作り変えてほしい。	○	地域密着型サービスとして何が重要かを管理者はじめ職員も理解しているので、地域の特性や利用者のニーズを取り入れ、地域密着型サービスとしての役割を目指した独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念が明確化されていないため、職員全員が必ずしも理念を共有しているとは感じられない。現在話し合いを行っているところである。	○	地域密着型サービスの理念を職員全員で作り上げることによって理念の中身が理解される。理解した理念を意識しながら、日頃の実践の中で活かすことが重要である。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一戸あたりの耕作面積が大きい農家が多く、地域性から閉鎖的な部分もあり、交流感覚が薄いため、地域密着型グループホームの理念を周知し、理解と協力を得るための努力を重ねている。しかし、設立から3年目になり、地域の敬老会や芋煮会への参加や、中学生の職場体験も受け入れ、ホームで発行する「たより」も町会を通して配布され、好評を得ている。「こども110番の家」の設置も検討しているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では改善項目はなかったが、内容を職員全体で共有し、より一層の理解とサービスの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、その都度時宜を得た内容の議題を提供し情報を伝えることにより、適切なアドバイスを得たり、イベントへの理解・協力を得ることができている。会議録からは回を重ねるごとに、構成メンバーからの発言がより具体的になっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者一人ひとりの近況を担当者の自筆で報告しており、金銭管理も月単位で報告し、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で家族が訪れた際、話しやすい雰囲気作りに配慮し不満や要望についても率直に話してもらえるよう努めている。運営推進会議でも発言の場を設け、意見箱を設置することとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力少なくしているが、やむを得ず異動になる場合には、利用者へ丁寧に説明し、新しく入った職員には速やかに利用者との親しめるよう配慮をおこなっている。新規職員用のマニュアルについても検討している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・向上に向けた研修に重きを置き、法人内の研修には計画的に参加させている。また、経験者のスキルアップ研修にも参加させている。研修を受けてきた職員は必ず伝達研修を行い、全員が内容を共有するよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームに職員が利用者として体験入居する形の交換会を行っている。今後は他のグループホームとの交流を検討し、サービスの質の向上やネットワークづくりを行うよう検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経歴や趣味を尊重し、写真・園芸・菜園・朗読など多様な表現方法で、生活空間にメリハリをつけ楽しんでもらっている様子がうかがわれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握については日常生活の言動から読み取る努力をしたり、意思伝達が十分でない利用者に対しても、家族からの情報や「暮らしの情報」を活用し、習慣や好み、過去の生活歴の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護担当者による毎月のケース検討会議とスタッフ会議を行い、家族等の意見を取り入れながら、利用者にとって適切な計画となるよう総合的な援助方針に対する具体的な支援内容を記載した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケース検討会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ3ヶ月ごとの見直しを行い、状態変化があった場合にはその都度見直しが行なわれている。また、モニタリングシートにより、総合的な評価を行い、現状に即した計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれているが、勤務ローテーションを検討しながら通常のケアに支障を来さないよう配慮している。受診内容等は家族に報告をし、適切な医療受診が行なわれるよう情報を共有し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者の重度化と終末期の対応方針」を作成し、入居時に利用者及び家族に対し説明し事前の確認書をとっている。今後は往診の医師等の指導のもとに職員間でグループホームにおける看取り等についての理解を深め、日常的にも話し合いを行なうなどして対応の統一を図ることとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重し言葉かけにも十分配慮し、「個人情報使用に関わる同意書」により利用者の同意を得ており、職員の守秘義務も採用時に誓約書をとるなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分に合わせて配慮しながら、それぞれのペースを尊重し、個別的な支援を行っている。利用者と職員が将棋に興じている場面も見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースで食事の準備や後片付けも行なわれており、利用者は馴染みの食器を使用し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しんで食事をしている。また、心身の状況から食事に時間をかけている利用者にも、声かけをしたり気分を安定させたりしながら状況に合わせ支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴ができるよう配慮している。入浴は好まない利用者が多いようで、職員のチームプレーを活用し、楽しく入浴できるよう工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意とする分野を見つけ、役割をお願いしたりし、楽しみながら過ごせるよう支援している。また、職員は必ず感謝の意を言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を取り入れて、買い物、散歩等の外出をしている。また遠出の外出や地域の行事にも希望する利用者には多く参加している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。センサーはあるが、静かであり、センサーに頼らず利用者のその日の状況を察知しながら、帰宅願望のある利用者にはさりげなく付き添いながら行動を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画により、総合的な訓練や避難訓練を含めて年2回定期的に訓練を行なっている。また、グループホーム内の自衛消防隊の役割分担を明確にしている。地域の自衛消防団に災害時の夜間の協力や避難誘導等をお願いしているところである。今後は備蓄について法人全体で整備されることが望まれる。	○	災害等に備えた準備が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための石油ストーブ等を法人として検討されたい。また、2階の非常階段の手すりが片側だけなので、両側に設置されるよう検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取量の記録、バイタルチェックを行っており、職員全員でそれぞれの状況を把握している。主な食材は業者に委託しており、カロリー計算が行なわれている。また、利用者の状況を見ながら調理法を変えたり、季節の野菜等を加え工夫しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよいリビングで、ゆっくり・ゆったりという生活のリズムが守られている。外出願望の強い利用者が、たくさんのクリスマスの飾りを数えたり、並べなおしたりしているうちに、外出するというのを忘れてしまって、穏やかに談笑している光景が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の好みの家具や季節の飾り物があり、ベッドを利用している人には足元に柔らかな敷物があって、起床時に冷たい床に直接足が触れない考慮がされている。居室にトイレが設置されてあるが、臭いは感じられない。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム みなみ

記入担当者名 渡邊 徳人

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。